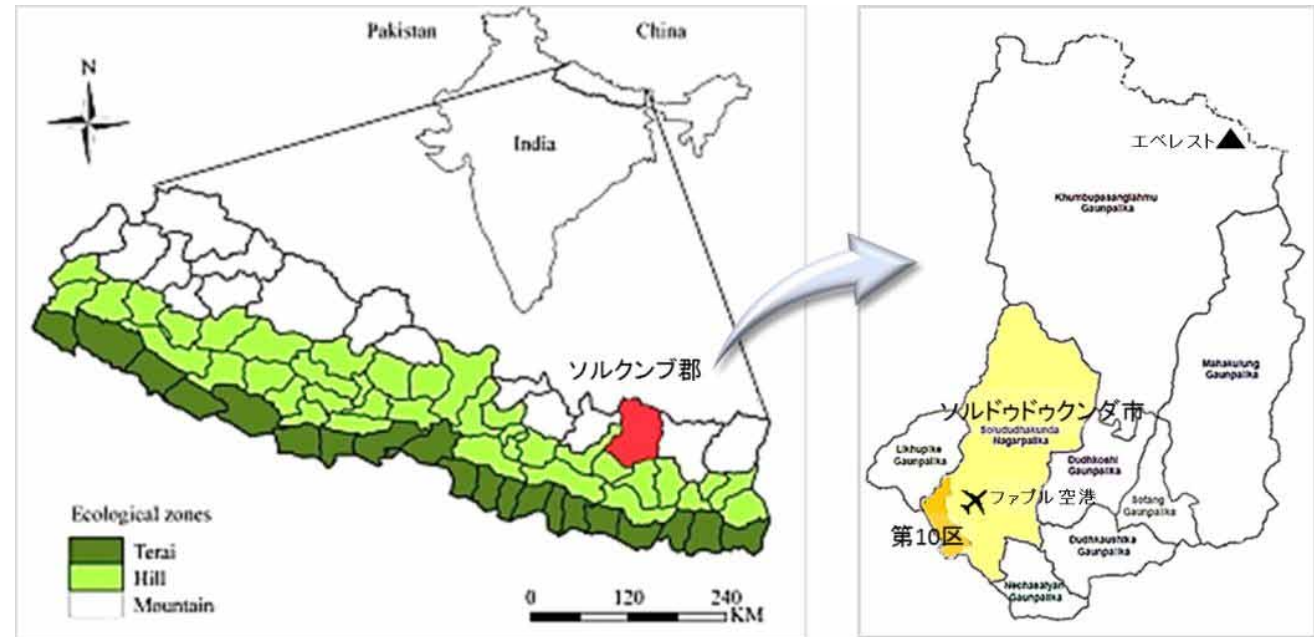


# サンダーソニア事業(ネパール・パタンジェ村の位置)

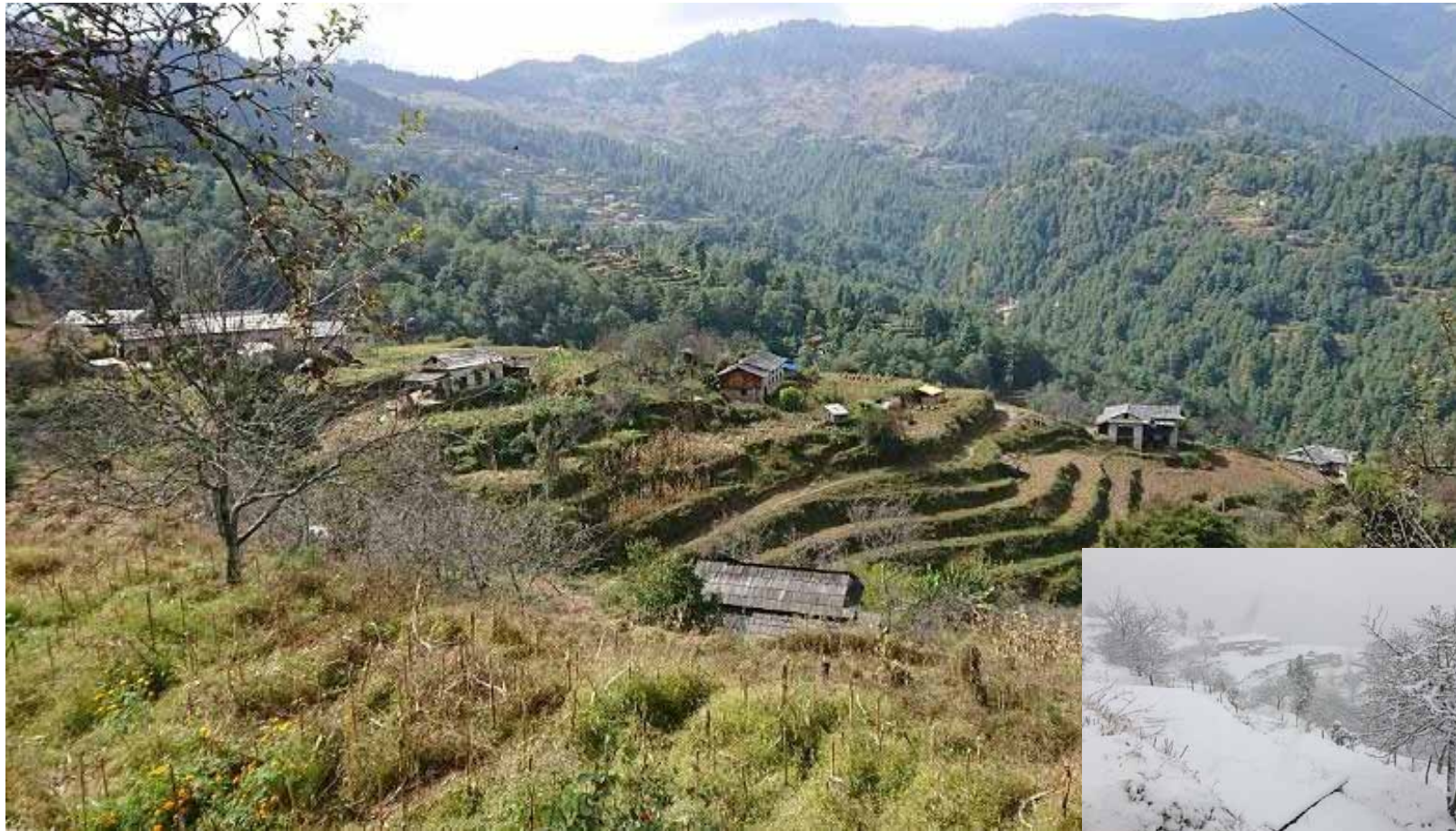
15S11

- Patanje(パタンジェ)村は世界の最高峰エベレスト峰の南西70Km山間地(標高2450m)にありネパールの首都カトマンズから西に120Km4輪駆動車で10時間かかります。
- 人口は約500人の山村です。



# サンダーソニア事業(パタンジェ村全景) 15S12)

- 村は主食のじゃが芋、とうもろこし、大麦を中心にした自給自足の農村です。
- 6月~8月は雨期で、1月~2月は降雪で交通は不便になります。



# サンダーソニア事業(エベレスト峰遠望)

15S13)



パタンジェ村はネパールでも数か所しか見れない貴重なエベレストビューポイントの一つです



# サンダーソニア事業(栽培地の開墾造成)<sup>15S14)</sup>



# サンダーソニア事業（

パタンジェ村では  
3月初めに植付（  
種蒔）5月初めに  
発芽、8月初めに  
開花です。  
9月末の雨期明け  
に球根堀上作業  
を始めます。

高地なので発芽後  
の5月でも雹害が  
あるので防除ネット  
が必要です。



# サンダーソニア事業(種子・球根)

15S2~3)

種子 乾燥状態で1グラム当たり150~180粒

G2球根(新塊茎:実生球根を更に1年肥育)した球根3~8グラム程度

マーブル(新塊茎の発芽点部分が球状に肥大化)発芽点を2個持つ。2~8g程度



# サンダーソニア事業(整地・植付・発芽) 15S31.2.3)

球根植え付け前の12月前に畑地の  
の天地返しをおこないます



球根植え付けは春の兆しが 5月初めに発芽が始まります  
見える3月初めに行います



# サンダーソニア事業(球根堀上) 15S34・5)

球根の堀上はサンダーソニア栽培で最も重要で繊細な作業です。柔らかく折れやすい球根を固くしまった畑土から1個ずつ掘り出します。



球根の堀上はサンダーソニアの茎が枯れ倒れた雨期明けの9月末の晴天が続き、程よく畑土が乾いた日を選んで行います。





# サンダーソニア事業(球根洗浄・検品) 15S34.5)

輸出用球根は土付き厳禁なので  
丁寧に水洗されます

総ての球根は1個ずつ栽培者自身が目視・触感(判断できない場合は精密重量計を使い)で品質検査を日本人のボランティアの指導で行い判断基準を身につけます。不良品については発生原因を皆さんで話し合い次の栽培に活かします。

検査合格品は  
品質・重量別に  
分別します。



# サンダーソニア事業(出荷・日本国内検品)

輸出梱包作業、航空便なので輸送費低減も重要ですがポイントは腐れ・折損などの防止です。

パタンジェ村からカトマンズ一辺の輸送は、雨期明けの悪路で4輪駆動車でも難儀です

ネパール航空直行便で輸入し、成田空港での植物検疫を受けたあと花農家さんの作業場を借りて受け入れ検査をやります。どうしても生産者側と買い手側の判断には差が出ますが、これを無くするのがねらいです。



# サンダーソニア事業(切花生産・出荷)

花農家さんは切り花の出荷の為には植付から予定した日にきちんと一斉に開花するように栽培管理をしなければなりません。その為には栽培温度・灌水制御等高度なノウハウを使います。

サンダーソニアの切り花は取り扱い農協や花市場経由で市中の花屋さんの店頭で販売されます

趣味の園芸家向けには球根は量販店のグリーン部門や花卉店、通販で販売されています



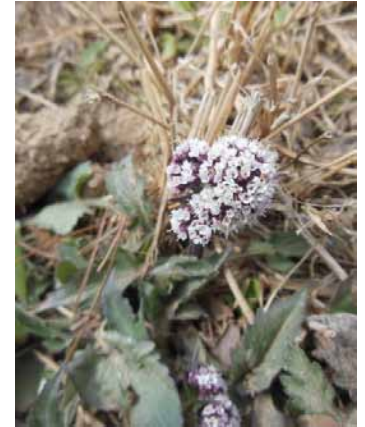
# サンダーソニア事業(栽培協力者)

サンダーソニア栽培事業の説明会に参加された「Patanje 村女性、子供協議会」のメンバーの皆さん。村には女性が現金収入を得られる仕事はほとんどなく、サンダーソニア事業は皆さんに大きな希望となりました。皆さん説明会には着飾って参加されています。

首都カトマンズ近郷でのサンダーソニア栽培適地探しからパタンジェ村での植付～堀上の技術指導、輸入後の品質評価迄の力仕事を、5年間ボランティアの女性グループが一貫して推進して来ました。



# サンダーソニア事業(周辺の山野草)





# (お祭り)

ティージ祭り: 8月末に女だけが夜中まで飲んで踊ってシバ神を供養する祭りです。



ホーリ祭: 3月末のヒンズー教の祭りで色付け祭りと言われ、お互いに色粉をつけあい街中のダンスで盛り上がります



ネパールはお祭りの国です。国内には100の部族とヒンズー、仏教、イスラム等5~6の宗教が有りそれぞれの祭事を大切にし、お祭りを遣りますので一年中お祭り休日です。

ネパールでは一般的にはビクラム暦を使い今年(2022年)はネパールカレンダーでは2077年で正月は西暦の4月14日になります。待ち合わせなどの時間については当日中あるいは良くて午前か午後の感覚です。役所も銀行も土曜日は休日で日曜日は稼働日です。

# サンダーソニア事業(支援者)

ラナ前駐日ネパール  
全権大使



小嶋ネパール  
協会会長



小川前駐ネパール  
全権大使(右端  
DurugaMagar)



西郷前駐ネパール  
全権大使



小嶋ネパール協会会長にはサンダーソニアでネパール支援の立ち上げから現在も大所高所からご指導を頂いています。小川大使からプロジェクトを軌道に乗せる為にJICAを御紹介頂き、西郷大使はサンダーソニア栽培でのネパール支援に特別な、ご理解で筑波の農研機構の紹介を頂きました

ラナ大使はネパールのラナ王朝の一員でネパールでは特別な存在です。プロジェクト立上げから強い関心を持って見守って頂いています



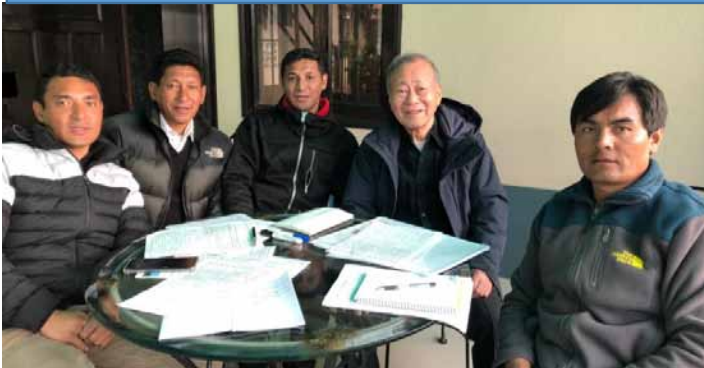
ソルクンブ郡ナムゲルシェルパ知事(右端:ヒマールソニア野澤氏)  
ソルクンブ郡選出の国会議員で山岳リゾート観光に意欲を持ち、地域発展について話し合った

# サンダーソニア事業 (HimalsoniaProjectメンバー)

ヒマールソニアプロジェクト メンバー  
構成は千葉工業大学山岳部OB/OG会、市川  
市花と緑のまちづくり財団有志、バララム外国  
法弁護士他



ネパール法人HimalsoniaGruPvd,Ltd役員会メンバー



パタンジェ  
村の若手  
で組織され  
ています

パタンジェ村サンダーソニア栽培協力農家の代表  
ネパールでは家族の構成単位の基本は家父長制度です。  
農作業や家事周りの仕事は総て女性が中心で、男性は山仕  
事、出稼ぎ、外部との応接を担当します。集合写真はサン  
ダーソニアの種子収穫の研修会に参加したメンバーで女性  
が多いのは栽培に直接携わっていない男性が参加し難く  
かったための様です。





可愛い子供たち



## Patanje村での家族の役割と

ネパールの家族の構成は伝統的な家父長制で一つ屋根の下に大家族での生活スタイルです。一見独立して村を出てカトマンズで生活しているように見えても困ったりすると家族ぐるみで実家に転がり込む感じです。

家事と日常の畑仕事は女に任せきりで男は胴巻きにククリ(山刀)をぶち込み山仕事や出稼ぎで、畑仕事は沽券にかかわるので人目のある所ではやりません。

一旦家の中に入ると采配を振るうのは、ばーちゃん板挟みになる嫁はストレスをロキシ(ネパールのどぶろく)にまぎらすので女性のアル中が多いようです。

多くの夫婦は子沢山で10人位子供を作る家族はざらで、山間地の農業では家族を養えないので若い男は皆海外に出稼ぎにでます。人口2900万人のうち200万人程海外に出かけ日本にも9万人位来ています。出稼ぎからの仕送りは国家収入のトップでGDPの30%となっています。憧れの出稼ぎ先と職業はイギリスの陸軍兵士でグルカ兵と呼ばれ尊敬されています。



